



こんな本も読んでみましょう

選者：埼玉県さいたま市立上小小学校 教諭 新井 千恵子

日本の
昔話

「ぶんぶくちやがま」

ちやがまにばけた、たぬきが大かつやく！

あるおてらのおしょうさんが手(て)にいれた、ちやがまがしゃべりだしました。きみがわるくなったおしょうさんは、ちやがまをふるどうぐやにうってしまいます。すると、ふるどうぐやさんがたべようとしたさかながなくなります。それは、ちやがまにばけて、もともどれなくなったたぬきのしわざでした。たぬきは、おわびにみせものごやで、おもしろいげいをみせるといいたして…。

日本の
昔話

「はなさかじいさん」

ここほれワンワン！ さあ、なにができる？

やさしいおじいさんがかわいがっていた犬(いぬ)が、はたけで「ここほれワンワン」とないたので、おじいさんがほってみると大ばん、小ばんがざっくざくとでてきました。それをねたんだとなりのふうふは、犬をつれさってしまいます。犬が「ここほれワンワン」とないたのでほってみると、でてきたのは…？

日本の
昔話

「つるにようぼう」

「つるのおんがえし」と、どこがちがうかわかるかな？

一わのつるがわかもの足(あし)もとにたおれていました。わかものは、はねにささった一本のやをぬいてきずぐちをあらってやりました。つるはげんきになると、まうえを三かいまわってからみえなくなりました。それからいく日かして、ちらちらこゆきのふるばんのこと、きれいなよめさまがやってきます。いったい、よめさまのしょうたいは…。

作：中川 李枝子

「ねこのおんがえし」

つるではなくて、ねこがしたおんがえして？

たいそうふるほけた山でらに、ひよっとすると百(ひゃく)さいをこえているねむりおしょうがすんでいました。ずっといっしょにいるとらねこは、おしょうさんのながいきをねがっていました。ある日、ちょうじゃどんのむすめがびょうきでなくなりました。そこで、ふしぎなことが…。